

**OLYMPUS**

Your Vision, Our Future

# オリンパス株式会社

## 2014年3月期 第2四半期 決算説明会

2013年11月8日  
オリンパス株式会社  
代表取締役社長執行役員  
笹 宏行

## 第2四半期決算のハイライト

### 【外部環境】

- 世界経済： 緩やかな回復傾向となっているが、財政問題を抱える欧州や、中国を始めとした新興国市場では不透明な状況が継続
- 日本経済： 円高修正等により景況感の改善が見られ、今後の本格的な景気回復が期待される状況

① 全社業績： 医療事業が牽引、大幅な営業増益を達成

② 医療事業： 中期ビジョンの戦略を着実に実行

③ 映像事業： ミラーレス一眼へのシフトを加速

④ 財務体質： 自己資本比率が大きく改善

# ①2014年3月期 第2四半期実績 連結業績サマリー

- ◆ 好調な医療事業が全社を牽引、連結営業利益は前年同期比・計画比ともに増益
- ◆ 訴訟の進行状況を考慮し、170億円を引当金として特別損失に計上

(単位:億円)	2013年3月期 2Q累計(4-9月)	2014年3月期 2Q累計(4-9月) (2013年8月業績予想値)	2014年3月期 2Q累計(4-9月)	前年 同期比	予想値比
売上高	4,058	3,350	3,338	△18%	0%
営業利益 (営業利益率)	180 (4.4%)	270 (8.1%)	285 (8.5%)	+58%	+6%
経常利益	74	175	170	+129%	△3%
当期純損益	80	100	△79	—	—

## ②医療事業： 中期ビジョンの戦略を着実に実行

- ◆ 大型新製品の投入効果により、上半期で過去最高の売上高を達成
- ◆ 中期ビジョン達成に向け、成長分野へ積極的な投資と活動

### 新興国市場での売上拡大

- ✓ 中国における医療事業の拡大に伴い、広州に4拠点目のトレーニングセンターを設立。重修理拠点を併設しサービス体制も強化

### 外科事業の飛躍的成長の実現

- ✓ 外科・処置具の成長に向けて先進国を中心にマーケティング・セールス体制を強化
- ✓ 欧米に続き、国内でもエネルギー分野の新製品「サンダーボート」を、計画前倒しで10月より導入。セールス体制を強化し、市場の高い評価に役立てていく



(広州トレーニングセンター外観)

---

## ③映像事業： ミラーレス一眼へのシフトを加速

# 上期計画未達の原因

## 売上未達と円安により営業損失を計上

### 【上期の損益状況】

(単位:億円)	2013/3期 上期 (実績)	2014/3期 上期 (期初計画)	2014/3期 上期 (実績)	差異 (計画比)
売上高	559	530	470	△60
コンパクトカメラ	309	250	227	△23
SLR(ミラーレス)	188	215	182	△33
その他(録音機)	62	65	62	△3
売上総利益	225	220	221	+1
販管費	270	220	248	+28
営業損益	△44	0	△27	△27

#### 【コンパクト】

販売台数は計画通り推移したが、想定以上の単価下落により売上高未達

#### 【ミラーレス】

- ・PENシリーズの新製品投入遅れ
- ・ミラーレス販売体制シフトが、一部下期へズレ込み

原価改善施策により粗利が改善

円安の影響により販管費は増加したが、コスト削減施策は計画通り実行

### ① コンパクトカメラのリスク極小化

- ✓ 低価格コンパクトカメラの開発を中止
- ✓ コンパクトの13年秋新製品を大幅に絞込み

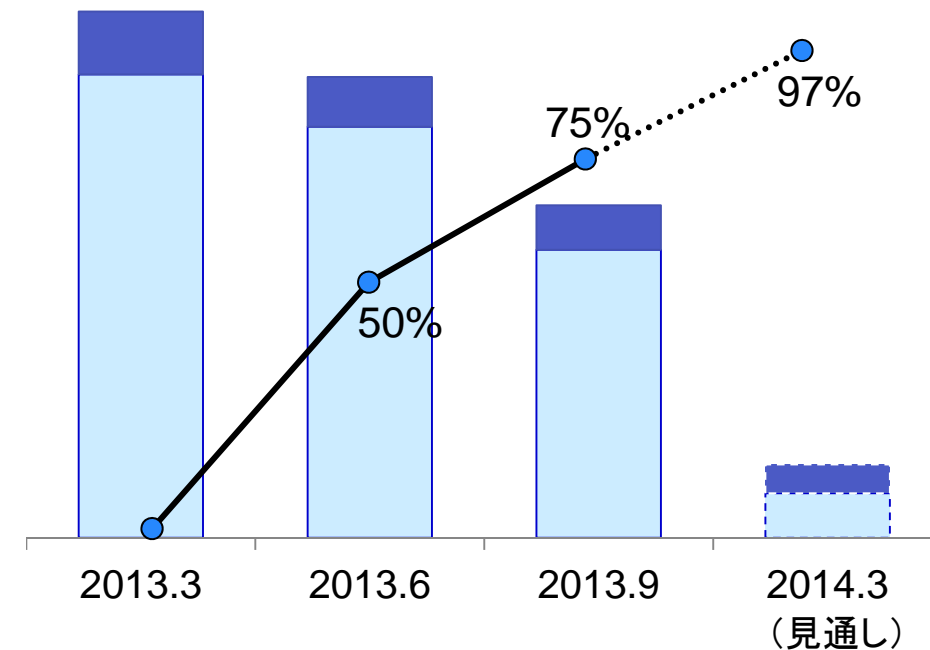
### ② 収益性の高いミラーレスへリソース集中

- ✓ 製造・開発のリソースをミラーレスへ集中
- ✓ マーケティング・販売活動もミラーレスへ転換

### ③ 市場変化への対応力強化

- ✓ 事業モニタリング強化により旧モデル在庫を計画以上に削減(旧モデル在庫の削減率は75%)
- ✓ コンパクトの在庫は台数ベースで2013年3月末比で4割減少

【在庫状況(台数ベース)】 ■ミラーレス  
■コンパクト  
●旧モデル在庫削減率



- ◆ 製造機能再編: 5拠点から2拠点体制(シンセン、ベトナム)への再編が完了
- ◆ 要員縮小: 製造・開発・販売を中心に、2012年3月末比で3割減少(\*)
- ◆ 販売体制再編: 欧米を中心に海外販売体制の統合が進捗
  - ✓ 欧州: 約20拠点⇒7拠点への再編完了
  - ✓ 米州: 中南米の直販を代理店に移行
- ◆ コスト改善: 製造原価・販管費削減による今期230億円のコスト改善目標に対して、上半期に5割進捗

(\*)パートタイマー含む



# ミラーレス一眼へのシフトを加速(1)

## 世界各国で高評価を獲得している新製品「OM-D E-M1」

◆ドイツ最大手の写真専門誌「fotoMAGAZIN」でデジカメ最高得点を獲得 (\*)

Ranking	Brand	Model	System	Score Total	画質	スピード	機能性	操作性
#1	OLYMPUS	Olympus OM-D E-M1	Mirror less Micro Four Thirds	91% ★★★★★	87%	94%	100%	85%
#2		A社製品	SLR Full size	89% ★★★★★★	87%	91%	90%	90%
#3	OLYMPUS	Olympus OM-D E-M5	Mirror less Micro Four Thirds	87% ★★★★★★	86%	82%	94%	80%

(\*)他社フルサイズを含め、市場に出ている商品の中で90%以上の評価を獲得した製品はオリンパスのOM-D E-M1のみ  
(「fotoMAGAZIN 11月」掲載号より)

### 【その他各国で高評価】

- ◆デジカメ評価の最大手「DP Review」では、「Gold」の評価を獲得
- ◆米国大手評価サイト「Reviewed.Com」では、2013年度の「ベスト・カメラ・オブ・ザ・イヤー」、  
「ベスト・ハイエンド・ミラーレスカメラ」を獲得
- ◆フランス最大の専門誌「Chasseur d'Images」では、画質・性能で高評価を得て5つ星を獲得
- ◆シンガポール最大の英字新聞「The Straits Times」で、「エディターズ チョイス アワード」を受賞

# ミラーレス一眼へのシフトを加速(2)

- ◆ ミラーレス中心の事業構造とし、黒字確保が可能な収益構造へ転換
- ◆ モニタリングを引き続き強化し施策の進捗状況を管理

## 【下期の収益見通し】

(単位:億円)	2013/3期 下期 (実績)	2014/3期 下期 (見通し)	前年同期比 増減
売上高	517	570	+53
コンパクトカメラ	263	159	△104
SLR(ミラーレス)	190	339	+149
その他(録音機)	63	72	+9
売上総利益	101	226	+125
販管費	287	248	△39
営業損益	△186	△23	+163

### 【コンパクト】

台数ベースでは5割減  
(コンパクトカメラの事業規模を大幅に縮小)

### 【ミラーレス】

- ・成長するミラーレス市場でOM-D新製品(E-M1)が高い評価、売上拡大に寄与
- ・今年度後半、OM-Dシリーズでシステムをさらに拡充
- ・下期の販売台数:41万台(前年同期比+41%)

原価改善施策により粗利が増加  
(対売上高ミラーレス比率: 37%⇒58%)

円安による販管費の増加をコスト削減施策で吸収

ミラーレスへのシフトにより、黒字確保が可能な収益構造へ転換

---

**OLYMPUS**

The Olympus logo consists of the word "OLYMPUS" in a bold, blue, sans-serif font. A horizontal yellow line is positioned directly beneath the text, extending across its full width.

# 2014年3月期 第2四半期 連結決算概況と通期見通し

2013年11月8日  
オリンパス株式会社  
取締役専務執行役員  
グループ経営統括室長  
竹内 康雄

---

# **(1) 2014年3月期第2四半期連結業績 およびセグメント別概況**

# 2014年3月期 第2四半期実績(前年同期比) ①連結業績概況

(単位:億円)	2013年3月期 2Q累計(4-9月)	2014年3月期 2Q累計(4-9月)	増減額	前年 同期比	2013年3月期 2Q(7-9月)	2014年3月期 2Q(7-9月)	前年 同期比
売上高	4,058	3,338	△ 719	△ 18%	2,162	1,746	△ 19%
販管費 (販管费率)	1,694 (41.8%)	1,764 (52.9%)	+ 70 (+ 11.1pt)	+ 4%	849 (39.2%)	904 (51.8%)	+ 7%
営業利益 (営業利益率)	180 (4.4%)	285 (8.5%)	+ 105 (+ 4.1pt)	+ 58%	159 (7.4%)	203 (11.6%)	+ 28%
経常利益 (経常利益率)	74 (1.8%)	170 (5.1%)	+ 96 (+ 3.3pt)	+ 129%	76 (3.5%)	146 (8.3%)	+ 91%
四半期純利益 (純利益率)	80 (2.0%)	△ 79 (-)	△ 160 (-)	-	125 (5.8%)	△ 61 (-)	-
<b>&lt;為替レート・影響額&gt;</b>							
円/US\$	79円	99円	19円(円安)				
円/Euro	101円	130円	29円(円安)				
売上高への影響額	-	+ 514億円					
営業利益への影響額	-	+ 102億円					

## 上半期のポイント

- ✓ 好調な医療事業が上半期として過去最高水準の売上高、営業利益を計上し、全社業績を大きく牽引
- ✓ 特別損失の計上：訴訟損失引当金 170億円

# 2014年3月期 第2四半期実績(前年同期比) ②セグメント別業績

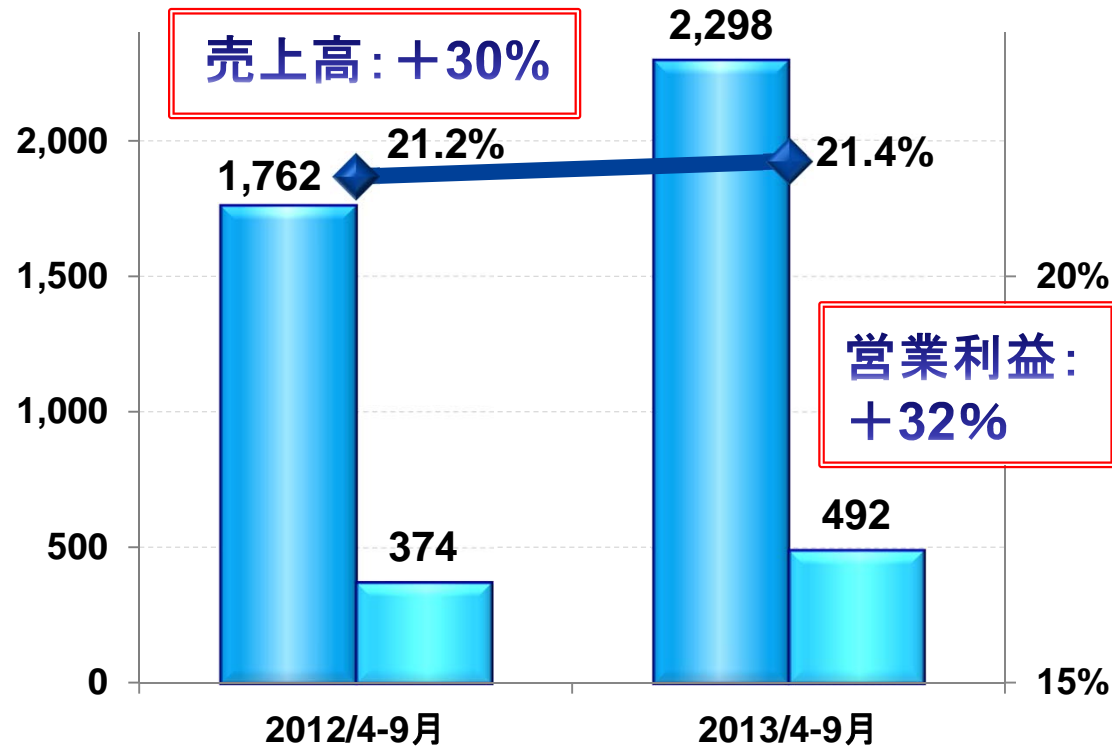
(単位:億円)		2013年3月期 2Q累計(4-9月)	2014年3月期 2Q累計(4-9月)	増減額	前年 同期比
医療	売上高	1,762	2,298	+ 536	+ 30%
	営業利益	374	492	+ 119	+ 32%
ライフ・産業	売上高	381	440	+ 59	+ 15%
	営業利益	11	5	△ 5	△ 50%
映像	売上高	559	470	△ 89	△ 16%
	営業利益	△ 44	△ 27	+ 17	-
情報通信	売上高	1,142	-	△ 1,142	-
	営業利益	17	-	△ 17	-
その他	売上高	213	130	△ 83	△ 39%
	営業利益	△ 36	△ 28	+ 8	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-
	営業利益	△ 141	△ 157	△ 17	-
連結合計	売上高	4,058	3,338	△ 719	△ 18%
	営業利益	180	285	+ 105	+ 58%

# 2014年3月期 第2四半期実績(前年同期比) ③医療事業

- ◆ 新製品が好調に推移し、上半期として過去最高水準の売上高、営業利益を計上
- ◆ 中期ビジョン達成に向け、戦略的な投資を加速したが、収益性の高い内視鏡分野の増収が寄与し、引き続き高い利益率を維持

## 上半期 (4-9月期)

(億円) ■売上高 ■営業利益 ◆営業利益率



## 2Q (7-9月期)

(億円) ■売上高 ■営業利益 ◆営業利益率



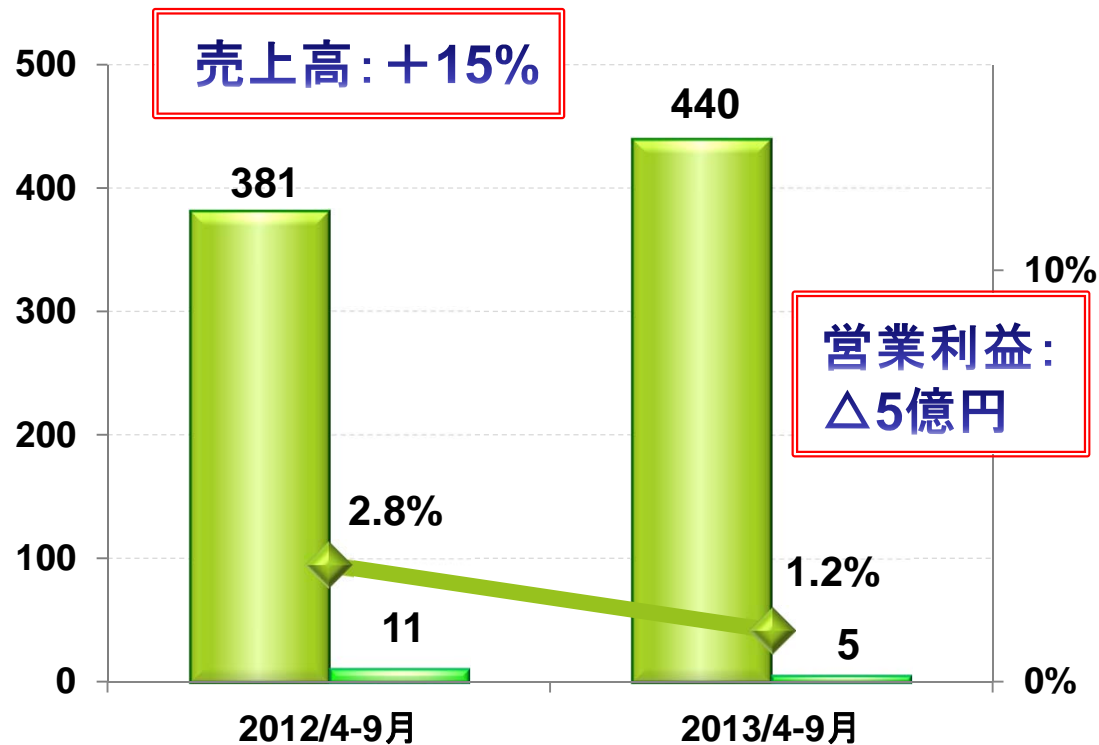


# 2014年3月期 第2四半期実績(対前年同期比) ④ライフ・産業事業

- ◆回復基調にある国内需要動向と新製品の販売効果により増収
- ◆今後の販売拡大に向けた販促投資等により、営業利益は減少

## 上半期(4-9月期)

(億円) ■売上高 ■営業利益 ◆営業利益率



## 2Q(7-9月期)

(億円) ■売上高 ■営業利益 ◆営業利益率

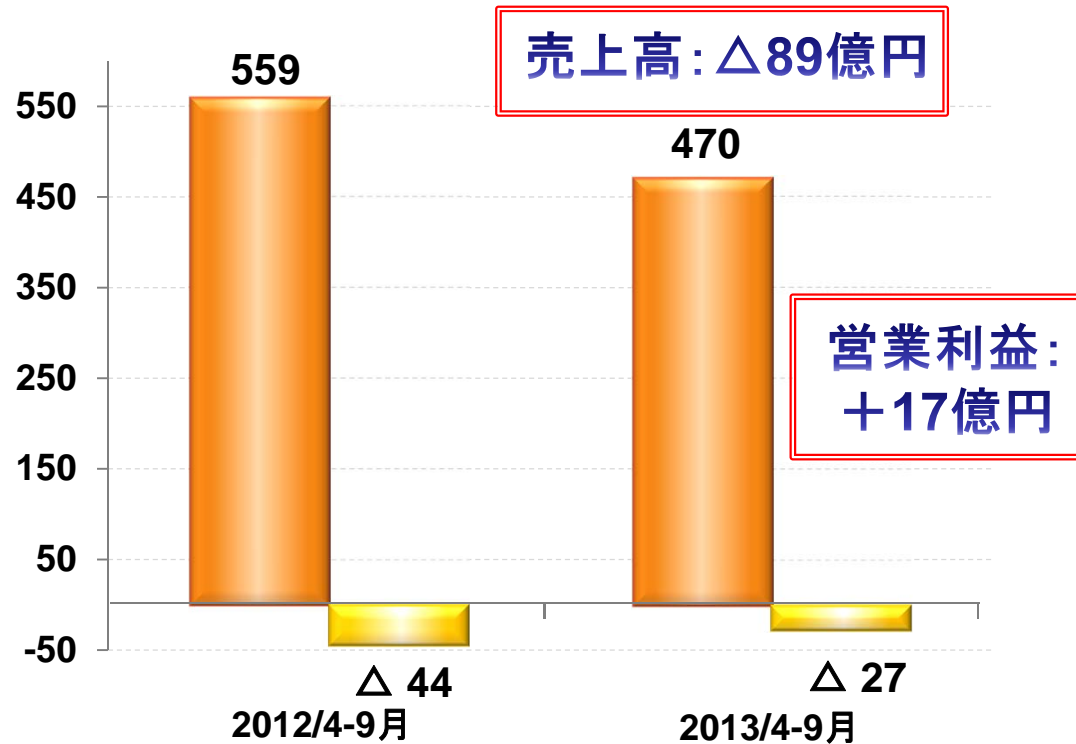


# 2014年3月期 第2四半期実績(前年同期比) ⑤映像事業

- ◆コンパクト、およびミラーレスの販売台数減少により売上減
- ◆コスト削減を進め営業損益は改善するも、売上高の減少及び、為替(円安)による費用増加により、営業損失を計上

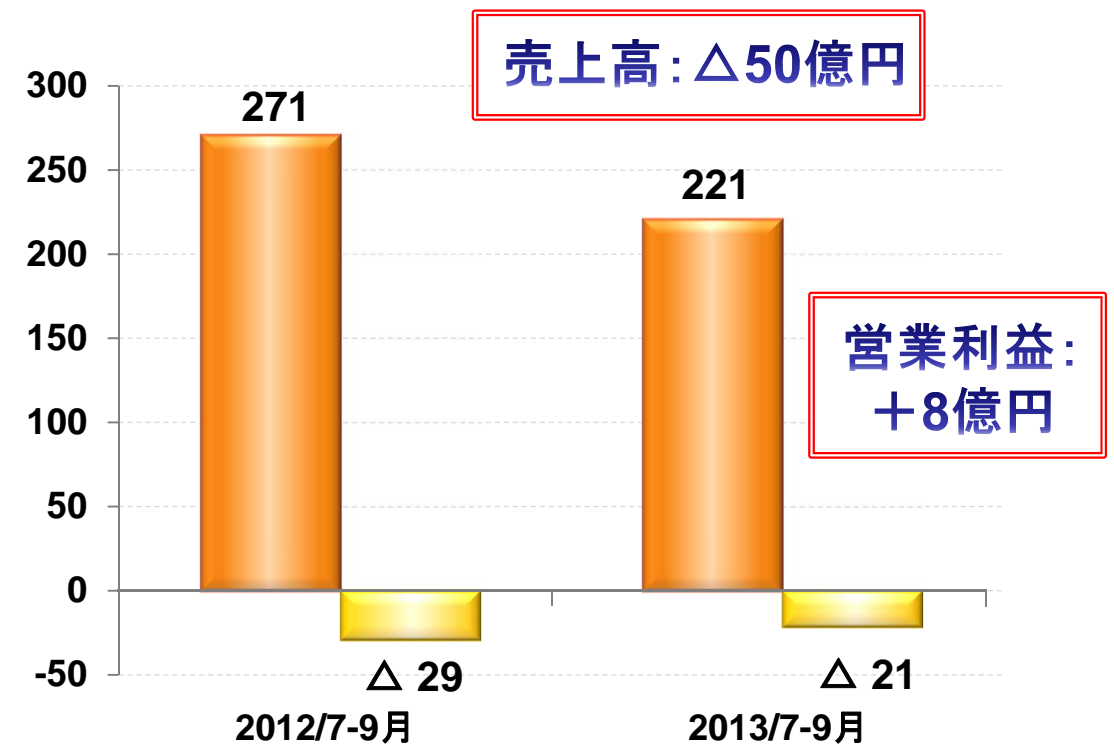
## 上半期(4-9月期)

(億円) ■売上高 ■営業利益



## 2Q(7-9月期)

(億円) ■売上高 ■営業利益

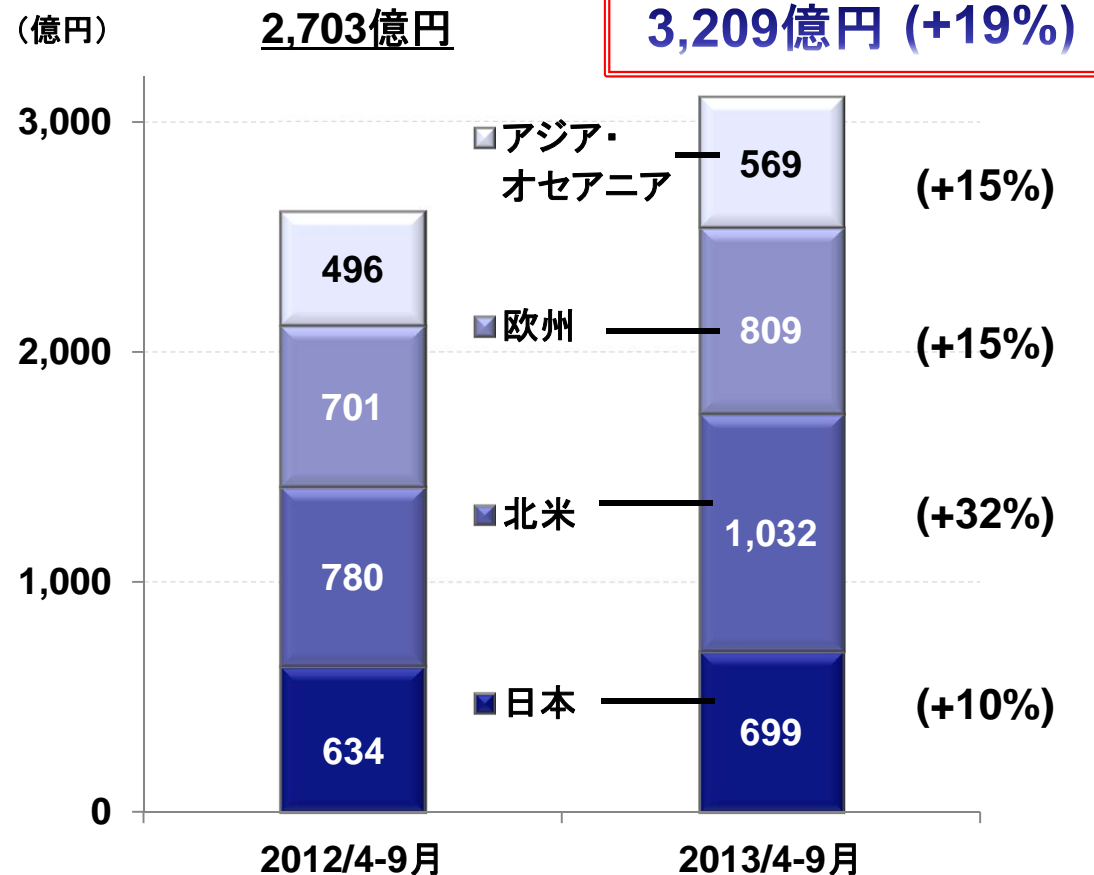


# 2014年3月期 第2四半期実績(前年同期比) ⑥仕向地別売上高(主要3事業)

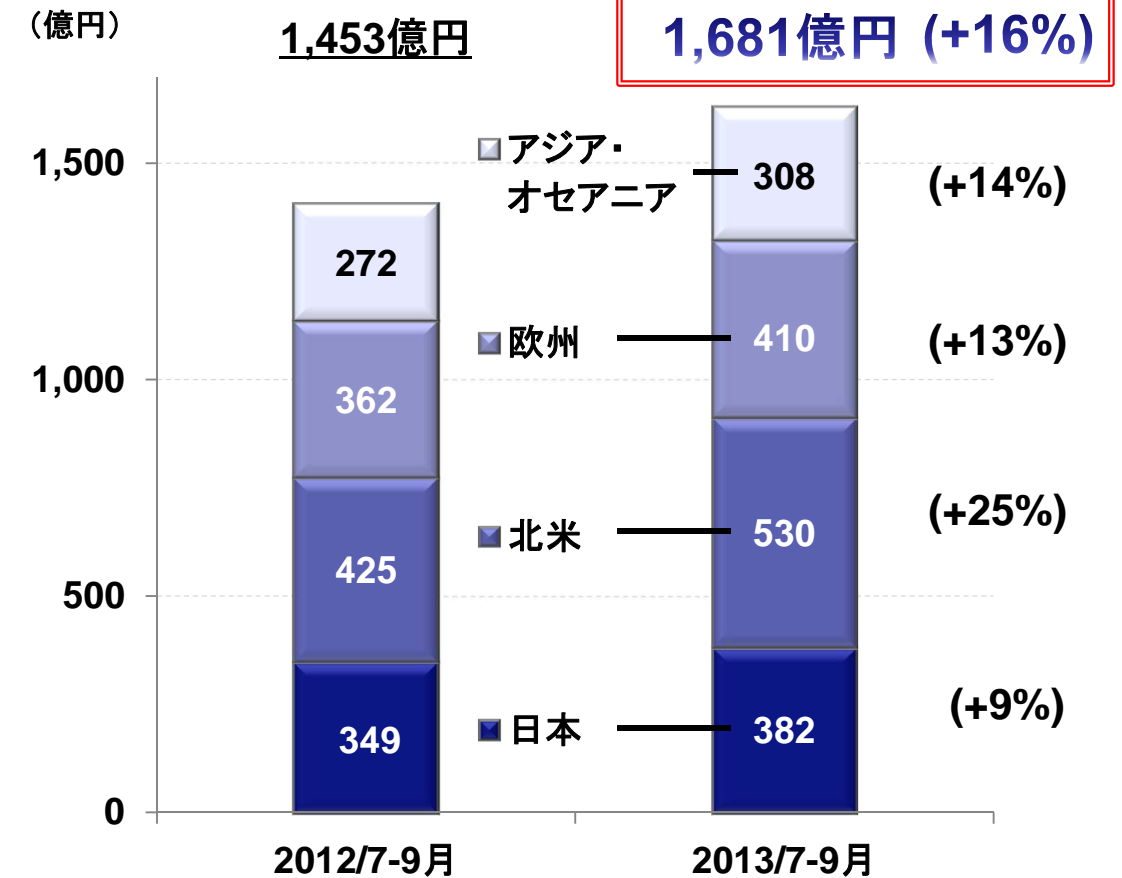
## ◆ 好調な医療事業が大きく牽引し、全地域で増収

(医療事業の4-9月期成長率: 国内+21%、北米+42%、欧州+25%、アジア・オセアニア+30%)

### 上半期 (4-9月期)



### 2Q (7-9月期)



# 2014年3月期 第2四半期実績(期初見通し比) ⑦営業増益の要因

## ✓ 医療事業(+32億円)

利益率の高い新製品が好調に推移したことや、為替によるプラス効果もあり、計画上振れ

## ✓ ライフ・産業事業(Δ10億円)

欧米マクロ環境の影響による売上高未達により、計画下振れ

## ✓ 映像事業(Δ27億円)

コスト削減を進めたが、売上高未達(コンパクト単価下落、ミラーレス台数未達)、為替マイナス影響により、計画下振れ

期初見通し(2013年8月)

270億円

医療事業

ライフ・産業事業

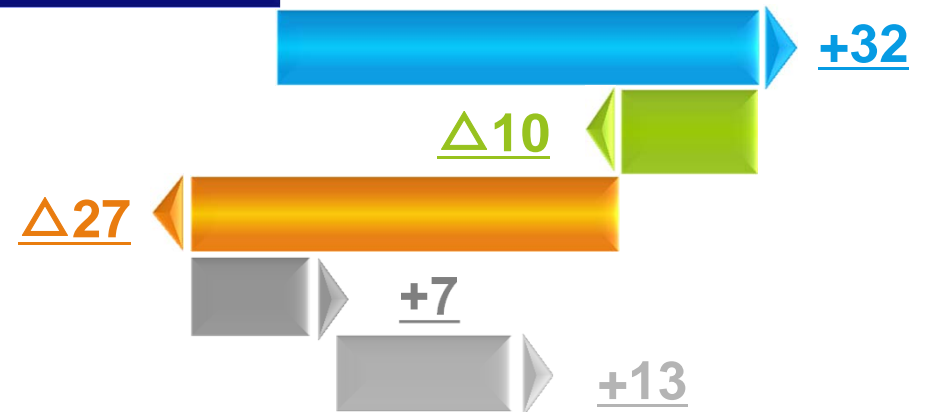
映像事業

その他事業

全社・消去

実績(2013年9月)

285億円



(単位:億円)

※増減数値は計画との差額

# 貸借対照表(2013年9月末)

✓ 約1,300億円の有利子負債圧縮(3月末比)と、約1,100億円の増資等により、自己資本比率は3月末より13ポイント改善、30%レベルまで回復

(単位:億円)	2013年 3月末	2013年 9月末	増減		2013年 3月末	2013年 9月末	増減
流動資産 (デジカメ在庫)	5,410 (236)	5,366 (245)	△44 (+9)	流動負債	3,169	2,600	△568
有形固定資産	1,298	1,339	+41	固定負債 (内:社債・長期借入金)	4,915 (4,229)	4,301 (3,558)	△614 (△670)
無形固定資産	1,746	1,725	△21	純資産	1,519	2,806	+1,287
投資その他資産	1,148	1,277	+129	(自己資本比率)	(15.5%)	(28.7%)	(+13.2pt)
資産合計	9,602	9,708	+105	負債 純資産 合計	9,602	9,708	+105

有利子負債: 4,300億円(2013年3月末比 △1,304億円)  
純有利子負債: 1,969億円(2013年3月末比 △1,339億円)

# キャッシュフローの状況(2013年4-9月)

(単位:億円)	2013年3月期 2Q (2012年4-9月)	2014年3月期 2Q (2013年4-9月)	増減
売上高	4,058	3,338	△719
営業利益	180	285	+105
(%)	4.4	8.5	4.1pt
営業CF	65	294	+229
投資CF	373	△107	△480
財務CF	△521	△219	+302
キャッシュフロー	△84	△32	+52
フリーキャッシュフロー	437	187	△250
現金及び現金同等物期末残高	1,860	2,290	+430
減価償却費	157	169	+12
のれん償却額	54	47	△8
設備投資額	146	172	+26

---

## **(2) 2014年3月期通期見通し**

# 2014年3月期 連結通期見通し

(単位:億円)	2013年3月期 (実績)	2014年3月期 (最新見通し)	前期比 増減額	前期比 (%)	2014年3月期 (期初見通し)
売上高	7,439	7,200	△ 239	△ 3%	7,000
営業利益 (営業利益率)	351 (4.7%)	725 (10.1%)	374 (+5.4pt)	+107%	710
経常利益 (経常利益率)	130 (1.8%)	500 (6.9%)	370 (+5.1pt)	+283%	480
当期純利益 (当期純利益率)	80 (1.1%)	130 (1.8%)	50 (+0.7pt)	+62%	300
<b>&lt;為替レート・影響額&gt;</b>					
円/US\$	83円	98円	+15円(円安)		
円/Euro	107円	129円	+21円(円安)		
売上高への影響額	-	+852億円			
営業利益への影響額	-	+185億円			



# 2014年3月期 セグメント別業績見通し

(単位:億円)		2013年3月期 (実績)	2014年3月期 (最新見通し)	前期比 増減額	前期比 (%)	2014年3月期 (期初見通し)
医療	売上	3,947	4,900	+ 953	+ 24%	4,700
	営業利益	871	1,100	+ 229	+ 26%	1,010
ライフ・産業	売上	855	1,000	+ 145	+ 17%	1,000
	営業利益	35	45	+ 10	+ 28%	70
映像	売上	1,076	1,040	△ 36	△ 3%	1,040
	営業利益	△ 231	△ 50	+ 181	-	-
その他	売上	417	260	△ 157	△ 38%	260
	営業利益	△ 49	△ 50	△ 1	-	△ 50
全社・消去	売上	-	-	-	-	-
	営業利益	△ 293	△ 320	△ 27	-	△ 320
連結合計	売上	7,439	7,200	△ 239	△ 3%	7,000
	営業利益	351	725	+ 374	+ 107%	710

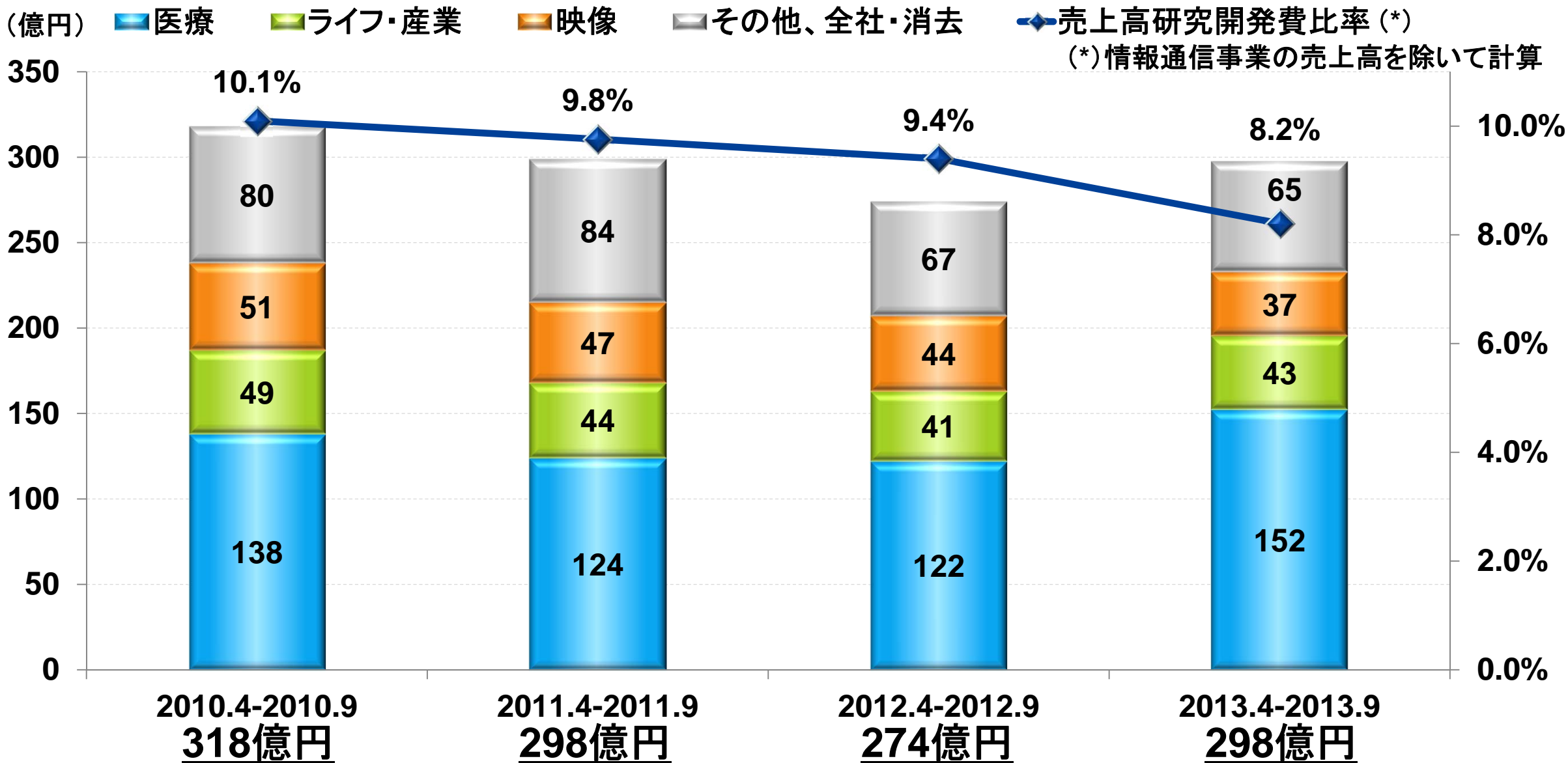
**OLYMPUS**

---

---

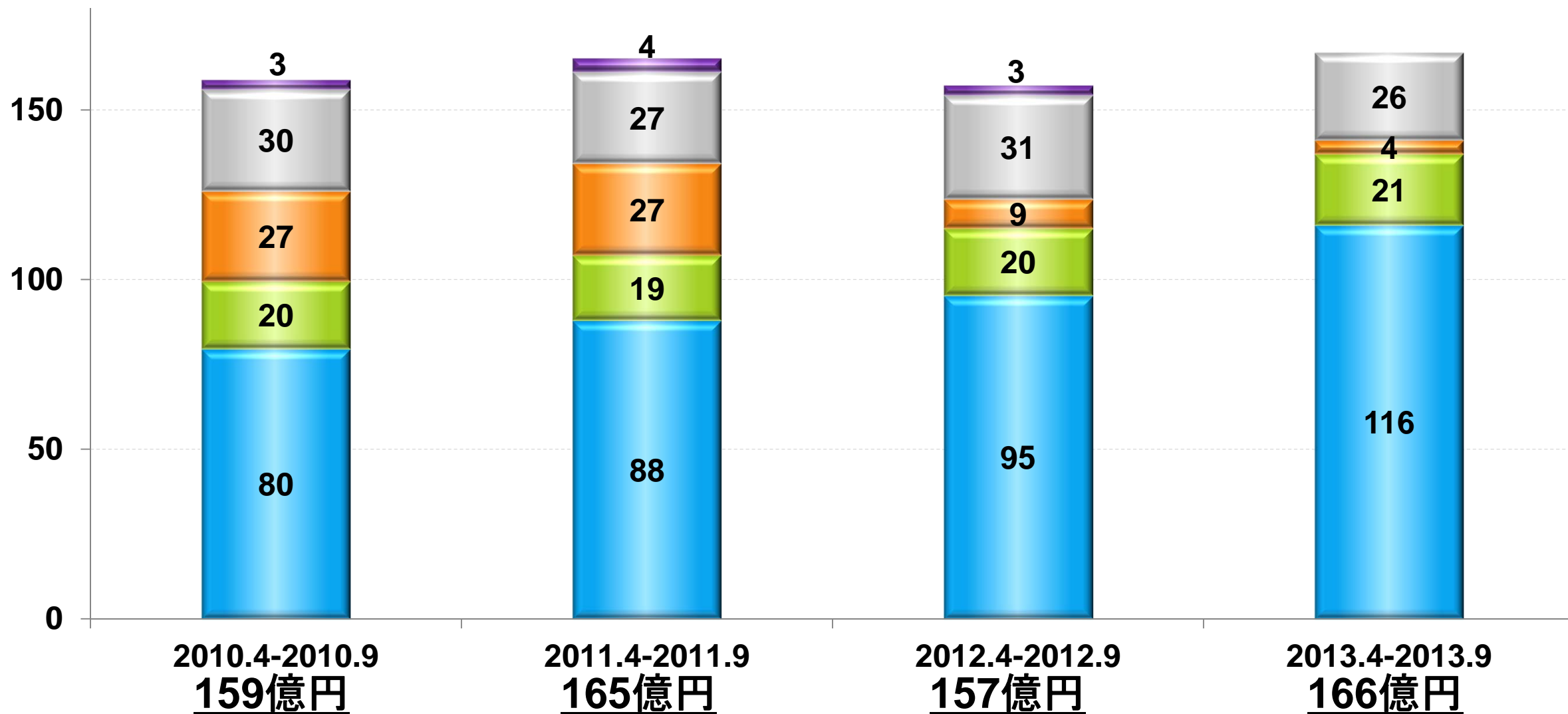
# 参考資料

# 【参考資料】 研究開発費



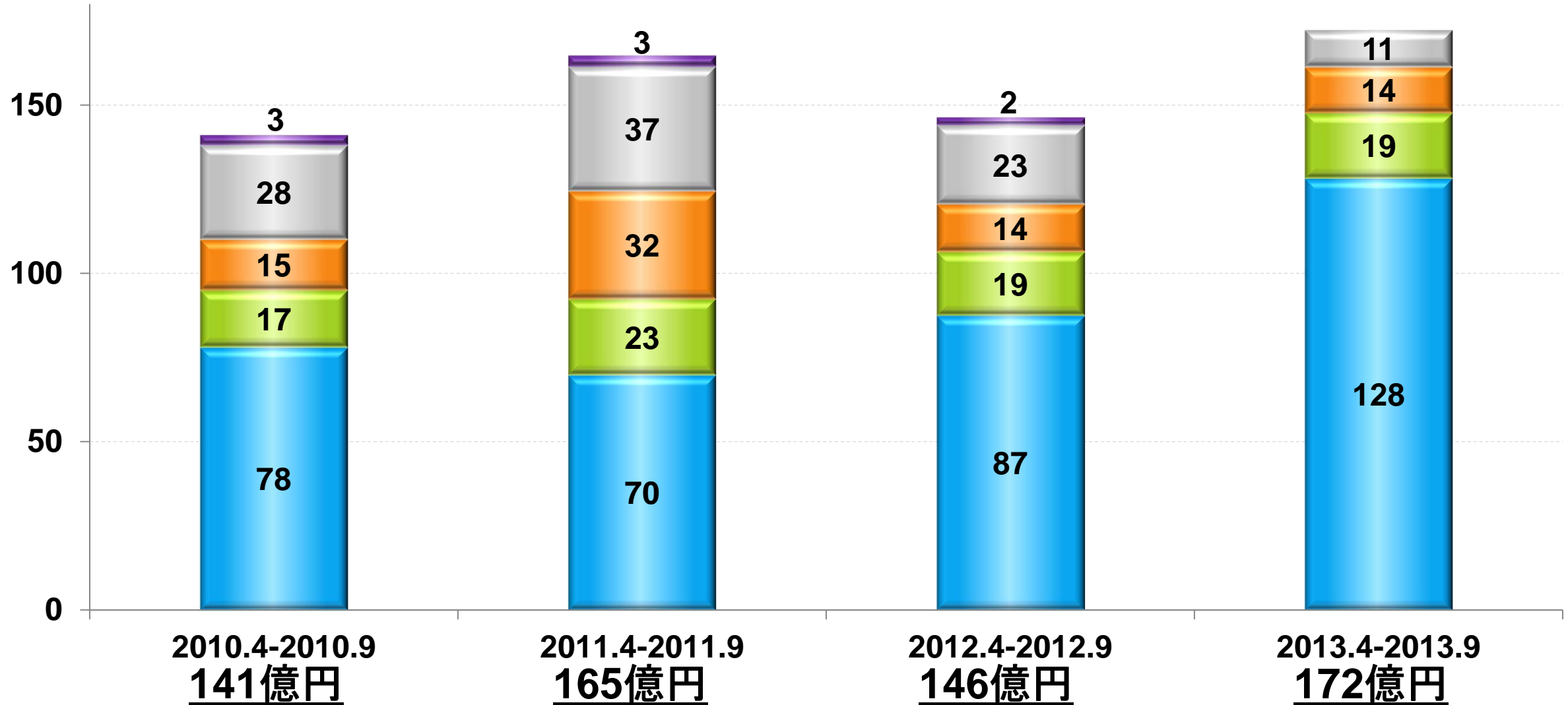
# 【参考資料】 減価償却費

(億円) ■医療 ■ライフ・産業 ■映像 ■その他、全社・消去 ■情報通信

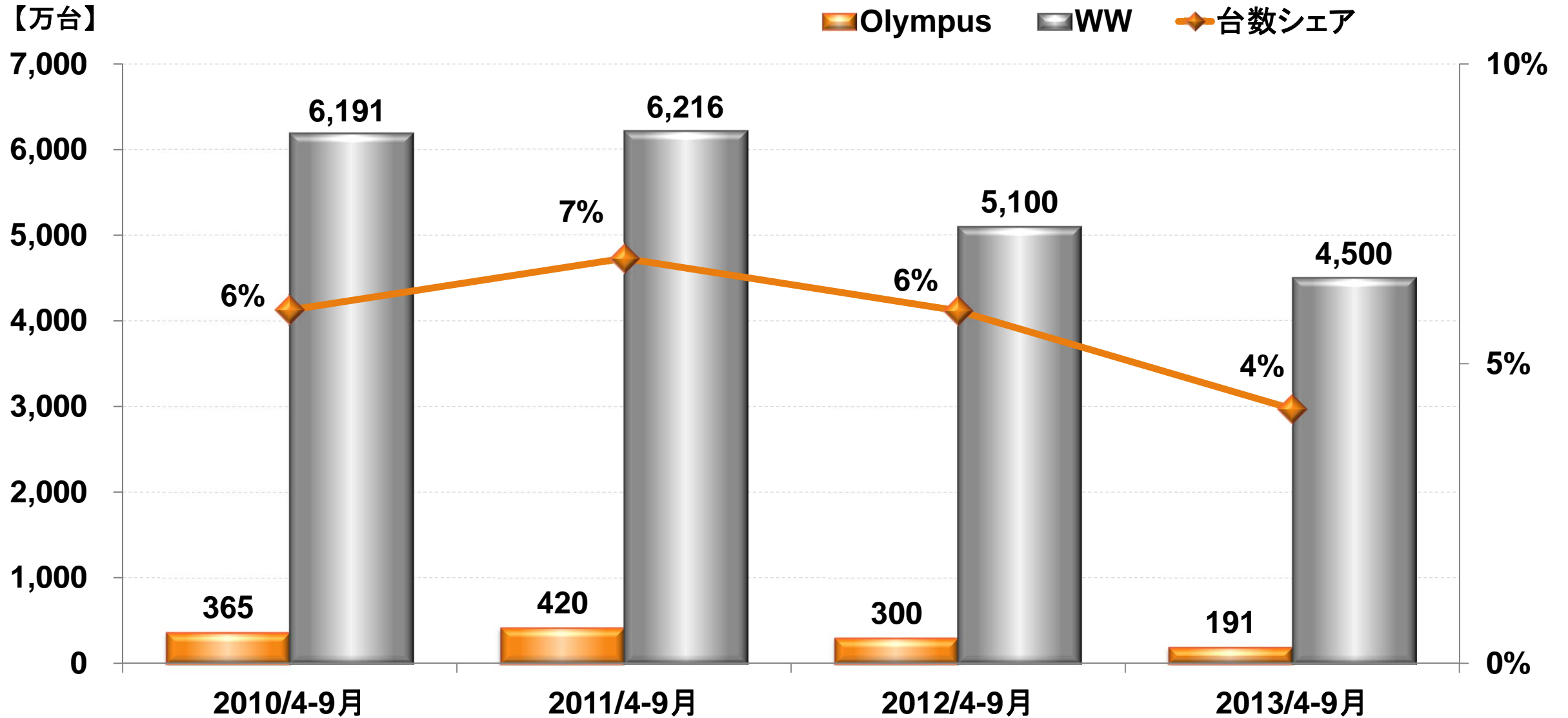


# 【参考資料】 設備投資

(億円) ■医療 ■ライフ・産業 ■映像 ■その他、全社・消去 ■情報通信

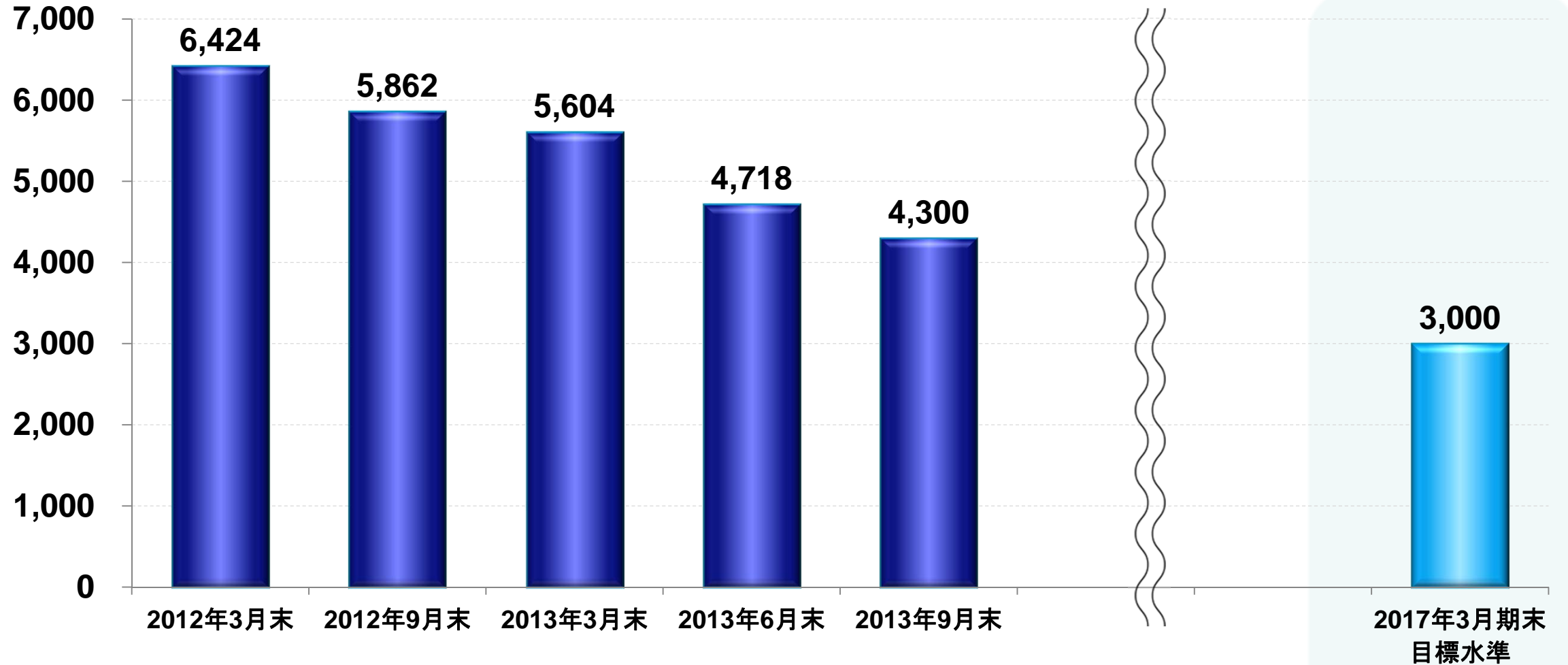


# 【参考資料】 デジタルカメラ



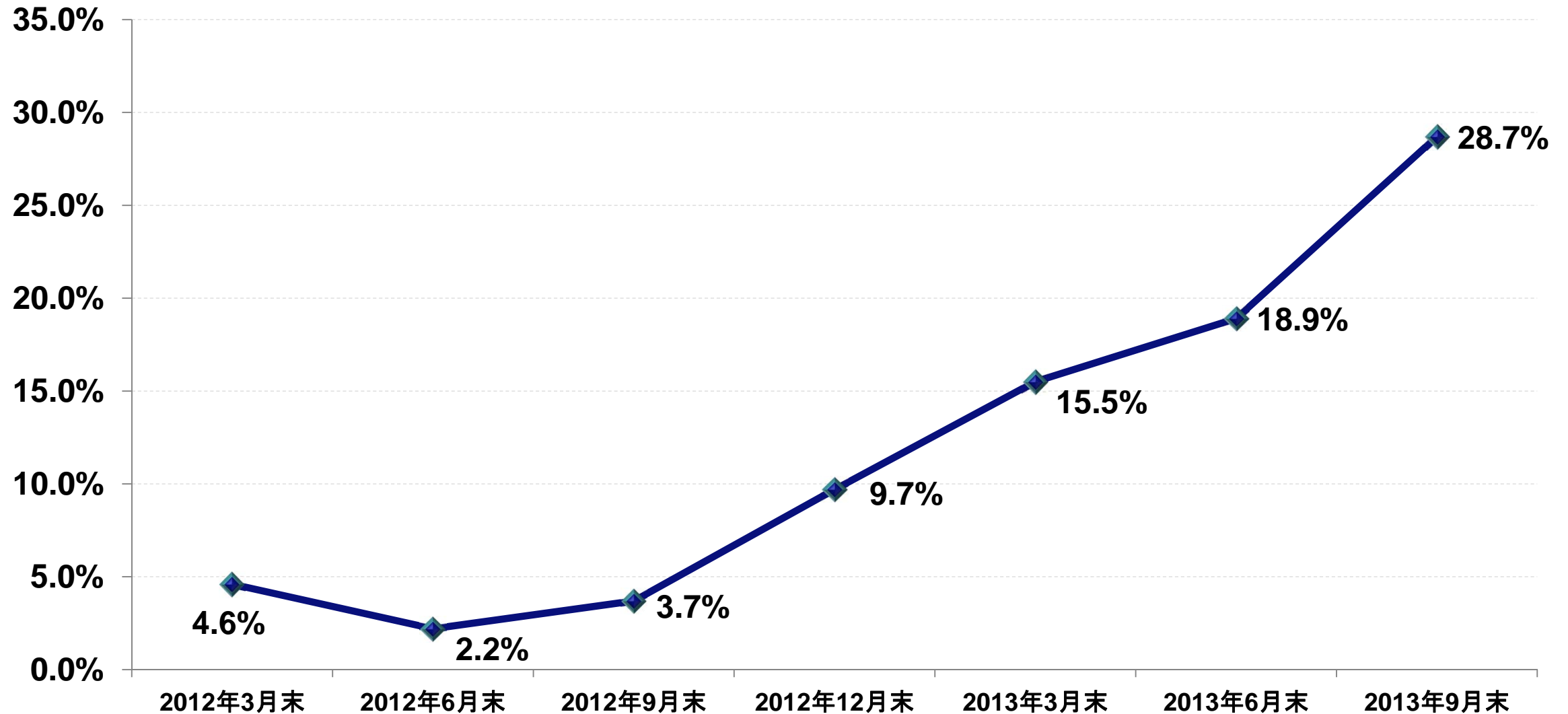
## 【参考資料】 有利子負債

(億円)





## 【参考資料】 自己資本比率



## 【参考資料】 中期経営計画(経営評価指標)

	2013年3月期 (実績)	2014年3月期 第2四半期(実績)	2017年3月期 (目標水準)
投下資本利益率(ROIC)	2.7%	—	10%以上
営業利益率	4.7%	8.5%	10%以上
フリーキャッシュフロー (営業CF+投資CF)	587億円	—	700億円以上
自己資本比率	15.5%	28.7%	30%以上

【為替前提】 US\$ = 90円 EUR = 120円  
 (\* ) 2013年5月15日発表数値

# 【参考資料】 中期経営計画(連結目標数値)

	2015年3月期	2017年3月期
売上高	7,600億円	9,200億円
営業利益 (営業利益率)	930億円 12%	1,430億円 16%
経常利益 (経常利益率)	700億円 9%	1,250億円 14%
当期純利益 (当期純利益率)	450億円 6%	850億円 9%

【為替前提】 US\$ = 90円 EUR = 120円  
(\*) 2013年5月15日発表数値

# 【参考資料】 中期経営計画(セグメント目標数値)

		2015年3月期	2017年3月期
売上高	医療	5,200億円	6,500億円
	ライフ・産業	1,150億円	1,350億円
	映像	1,000億円	1,000億円
	その他	250億円	350億円
	合計	7,600億円	9,200億円
営業利益	医療	1,110億円	1,500億円
	ライフ・産業	90億円	150億円
	映像	70億円	90億円
	その他	▲10億円	10億円
	全社・消去	▲330億円	▲320億円
	合計	930億円	1,430億円

【為替前提】 US\$ = 90円 EUR = 120円  
 (\*) 2013年5月15日発表数値

- 
- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
  - また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
  - 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。